

# 行政改革推進会議（第20回）

## 議 事 録

内閣官房行政改革推進本部事務局

# 行政改革推進会議（第20回）

## 議 事 次 第

日 時 平成27年11月27日（金） 9：10～9：20

場 所 官邸4階大会議室

1. 開 会

2. 議 事

平成27年「秋のレビュー」等の取りまとめ

3. 議長挨拶

4. 閉 会

○河野行政改革担当大臣 おはようございます。

ただいまから「第20回行政改革推進会議」を開会いたします。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

11月11日から3日間「秋のレビュー」を実施させていただきました。今回は一般の方の傍聴席を設け、高校生・大学生を含め、多くの方に来ていただきました。また、テーマごとに有識者にも御参加をいただき、幅広い分野にわたり充実した議論ができたと考えております。

「秋のレビュー」の取りまとめ、東京オリンピック・パラリンピック関連事業と基金の各府省への横展開、その他府省において見直しを行うべき事項の3点について、お手元に資料をお配りしております。

今回取りまとめた事項に関する各府省の対応状況については、行政改革推進会議において、しっかりとフォローアップしていきたいと考えております。

それでは、時間もありませんが、委員の皆様から今回の件で御意見を伺いたく存じます。御発言のある方は、お手数ですがネームプレートを立ててくださいますよう御案内を申し上げます。

それでは、河村先生から。

○河村議員 今年の行政事業レビューに参加させていただきました。河野大臣の下、大変に広報効果の高いレビューであったと思います。

私自身、身近な、そして思いもよらない方から多くお声をかけていただきました。こんな政策があったのだ、こんな事業があったのだ、こういうお金の使われ方をしているのだということを、もっと分かりやすく聞いてほしい、分かりやすく説明してほしいという声でした。

今後につきましては、各事業の有効性・効率性を厳しく議論することはもとより、より国民に分かりやすいものにならないか、工夫していくことが課題であると思います。

以上です。

○河野行政改革担当大臣 それでは、大塚議員、どうぞ。

○大塚議員 今回の行政事業レビューは、マスコミ等にも非常に注目されておりましたし、学生にも傍聴に入ってもらったことにより、若い人にも身近に感じてもらうことができた、非常に工夫を凝らした取組であったと思います。

これからも、国民が行政を身近なものとして感じることができ、またレビューがさらに効果的になるような、様々な工夫をお願いいたします。

○河野行政改革担当大臣 それでは、秋池議員、どうぞ。

○秋池議員 行政改革ですとか財政再建は、国民が当事者意識を持たないと成り立たないと考えております。

自分から遠いところで政府が使っているというお金ではなくて、便益を受けている自分も使っているという意識を持つことが重要だと考えております。

そのためにも、このレビューの発信力も活用しながら、こういった意識を育んでいけるといいと考えております。

○河野行政改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、渡議員、どうぞ。

○渡議員 私からは1点、PFI事業の推進につきましてお願いがございます。

政府のアクションプランでは、この3年間で19案件のコンセッション方式を実現する目標となっており、そのうち空港案件の一部がスタートしましたが、他はほとんど手つかずの状態となっております。特に、このうち12案件が上下水道事業ですが、これは全く進展がない状態です。

理由はいろいろありますが、最大の要因の一つは、行政の縦割りの問題が横たわっていることだと思います。

調べますと、上下水道を民営化するためには、51の関連法令や規則があり、その手続が物凄く煩雑になっています。この点、特区制度を活用したり、規制を緩和していただくということをしないと、おそらく進まないと思います。

総理の「19案件を向こう3年間で前倒し達成する」という大号令は、マーケットに対して相当なインパクトを与えました。

阻害になっている要因の除去についても、是非トップダウンで大号令を出していただきたいと思います。

よろしくをお願いします。

○河野行政改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、土居議員、どうぞ。

○土居議員 私も「秋のレビュー」に関わらせていただきました。

これから18歳以上の選挙権になりますので、いかに行政改革を政府がやっているかということ若い世代にアピールする場面として、非常によかったと思います。

行政改革をしているということは、何か行政の中に無駄があって、その無駄が悪いことだということを暴いているのではなくて、日々新陳代謝でそういうものを改め、努力しているという姿を、国民に見せるということが大事だと思います。

以上です。

○田中議員 ありがとうございます。

私は少しアングルが違いまして、経済・財政一体改革と行政事業レビューの連携について申し上げたいと思います。

まず、河野大臣を初め、事務方の皆さんが非常に尽力してくださったことに御礼を申し上げます。

3日間のセッションの中で、少し毛色の違ったセッションが1つありまして、行政事業レビューと、経済・財政再生計画との一体化ということで、社会保障のKPIのセッションを設けました。

これはまだまだ議論し尽くしていないところもあるのですけれども、やはり政策から事業に至る、政策の川上から川下をひとつ串刺しにして管理をするという意味で、非常に重要なセッションだったと思いますので、今後もこの連携を続けていくべきではないかと思えます。

以上です。

○河野行政改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、麻生副総理から御発言をお願いしたいと思います。

○麻生副総理・財務大臣 今回の取りまとめにつきましては、有識者の方々からいろいろ有効・有益な御指摘をいただいたものと考えております。

御存じのように平成28年度の予算というものは、経済・財政再生計画の初年度の予算ということになりますので、事業を所管しております各大臣が取りまとめ結果というものをしっかりと受け止めて、是非御指摘をいただいた点は、リーダーシップを発揮して見直しを進めていただきたい。進めていくことが重要だと思っています。

財務省といたしましては、行政改革推進本部事務局と連携して、今回取りまとめで指摘をされた事項につきましては、各府省とともに検討を行わせていただきまして、その結果を平成28年度の予算等にしっかりと反映をさせてまいりたいものと考えております。

○河野行政改革担当大臣 ありがとうございます。

最後に安倍総理から御発言をいただきたいと思えます。プレスが入室いたしますので、少々お待ちください。

(報道関係者入室)

○河野行政改革担当大臣 それでは、安倍総理、よろしくお願ひいたします。

○安倍内閣総理大臣 皆様、おはようございます。

委員の皆様におかれましては、安倍政権発足以来3度目となる「秋のレビュー」に御協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

国民の皆様にご負担いただく税金が、無駄な歳出や優先順位が低い施策に使われるといった批判は絶対に招かないようにしなければなりません。

本日、河野大臣から「秋のレビュー」等における指摘事項について御報告がありました。これらはいずれも重要なものであります。麻生副総理からも御発言があったとおり、予算編成に的確に反映するとともに、さらに事業の改善に取り組んでまいります。

また、本日皆様から御発言をいただいた点についても、しっかりと受けとめまして、今後の政策運営に当たっていきたくと思えます。

先ほど来、皆様から御発言がございましたように、今回、河野大臣の下、皆様の御尽力をいただき、国民的な関心が飛躍的に高まったわけであります。この国民の皆様のご関心と声を力に変えて、行政改革を力強く進めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○河野行政改革担当大臣 どうもありがとうございました。

プレスの方は御退室をお願いいたします。

(報道関係者退室)

○河野行政改革担当大臣 以上をもちまして、会議を終了いたします。誠にありがとうございました。